

# ひびき

教育目標「なかよく かしこく たくましく」

一人一人が大切にされる学校・風通しのよい学校—  
多治見市立共栄小学校 R6.8.30

## 「教育 DX」と「デジタル・シティズンシップ教育」の推進 —ICTによる社会の大きな変革の中で生きていく子どもたちのために—

共栄小学校長 加藤 隆史

ある女子高生の朝のスタートは10分後のドローンによる宅配の到着をスマホが教えてくれることから始まる。登校前の慌ただしい中、AI冷蔵庫に話しかけると、冷蔵庫は朝食レシピや足りないものを教えてくれる。また、近くのお店で受け取るための昼食のサンドイッチをAIスピーカーに話しかけて注文する。そして、祖母は家で主治医のオンラインの遠隔診療を受けながら、学校へ行く彼女を見送ってくれる。通学途中の畑では、人手不足解消のため無人のトラクターが土地を耕している。そして、彼女はAIスピーカーで注文した昼食をお店で受け取ると、無人運転のバスに乗って学校へ向かう。

これは2018年、今から6年前に作成された政府広報のWebムービー「ソサエティ5.0 すぐその未来」で描かれている未来の世の中です(上白石萌音さんが爽やかに演じている映像です。ぜひ、ご覧ください)。

6年たった今、この映像をあらためて見ると、「すぐその未来」は、もうすでにいくつかが現実のものになりつつあると私は感じます。また、皆様も上のような状況にそれほど驚きを感じないのではないのでしょうか。そう考えると、社会や生活のデジタル化は、ものすごいスピードで進んでいるものといえます。

こうしたICTの進化により、社会や経済活動が日々、大きく変化する「大改革時代」が到来していることを踏まえ、今年度、共栄小では「教育DX」と「デジタル・シティズンシップ教育」を重点の一つとして取り組んでいます。学校教育のDX(デジタルトランスフォーメーション)とは、単にタブレットなどのICT機器を導入し情報化やデジタル化をすることだけでなく、デジタルテクノロジーを活用して、学校の授業や様々な教育活動そのものを変革することを目指していきます。

また、「デジタル・シティズンシップ教育」とは、私たちの社会や生活が、デジタル化により変化していく中、子供たち、教師、保護者、地域の人々が、同じ市民として「ICTをよりよく活用しながら、デジタル時代の良き市民として生きていくには、どうしたらいいか」を考えていく場をつくり、よりよい判断や行動力を身に付けさせていきます。

そのためにはタブレットを日常的に「文具」として自らの責任で活用することになります。また、様々な問題が起これば、その都度、考えさせ解決させていくことも必要となります。推進にあたっては保護者様のご協力やご理解が必要になることと思います。どうぞ、よろしく願います。



1年生の音楽の授業の一コマです。タブレットを使って自分なりのリズムを考えました。